

第3学年 特別活動（学級活動）学習指導案

場 所 3年1組教室

児 童 男15名 女12名 計27名

指導者 田村直樹

1 議題

「係パーティ」を盛り上げよう

2 児童について

児童は、3年生になり初めて、クラス替えをしたが、班の友達と協力して学習したり、休み時間にたくさんの友達と遊んだりして、誰とでも仲良くできている。しかし、学級としてとらえると、特定の友達とばかり遊んだり話をしたりしているように見える(人間関係形成)。また、学級をよりよくしたいという思いはあり、一人一人は当番活動等を積極的に行っている。その一方で、みんなで考えた給食を食べた後のルールなど、学級の約束を守れない面もある(社会参画)。さらに、「なりたい自分」はそれぞれがしっかりとっており、目標を意識して生活している。しかし、そこに至るための手立てを具体的にイメージしている児童は少ない(自己実現)。

学級会については、2年生までに簡単な司会や黒板記録を行ってきたが、計画委員会については、組織していなかった。自分の考えをしっかりと主張することはできている。

以上のことから、2年生までにできるようになってきたことを基に、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点を大切にした活動計画を作成すると共に、計画委員会を組織して学級会を行い、実践していく必要があると考える。

3 活動の指導構想

(1) 議題について

今回の議題は、新学習指導要領第3章第1節2学級活動の内容(1)学級や学校における生活づくりへの参画 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 に関わることである。

係活動は当番活動と違い、あると楽しく豊かな学級生活を作ることができる。係活動を積極的に行うことは、児童の自発的・自治的な活動につながっていく。そのような係活動を、2年生時には当番活動の延長として取り組んできた。活動の様子は、毎日行う係、係内の誰かが行う係、あまり活動していない係と様々であり、全員が意欲的に活動してきたとは言い難いため、「もっと係活動を盛り上げたい」という声が出てきた。意欲的に活動できてない理由として、係活動の楽しさを感じている児童が少ないこと、係活動の見通しがもてていないこと、児童にとって必要とする係を設置できていないこと、成果が学級に反映されていないこと、創意工夫が生かされていないこと、さらに運動会の練習で時間的な余裕がなかったことなどが原因であると考えられる。このことから、係活動が充実することは、学級生活が向上し、自ら創意工夫した活動を促し、後の委員会活動が充実し、学校を明るく豊かなものへしていくことにつながり、ひいては今後所属する社会での集団生活をよりよくしていこうという態度へとつながると考える。そこで、児童の思いをもとに、活動計画を作成し、計画委員会を組織し、話し合いを行い、お互いに係活動を披露しあう係パーティを実践する。この一連の活動を通して、友達と協力して、自主的・実践的に活動する姿に近づけるようにしていきたい。

(2) 指導にあたって

児童の深い学びの姿を次のように捉え、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

<育てたい資質・能力>

- ・ 自分たちが学級をよりよくするために話し合い、よりよいパーティにするための合意形成の方法や協働して実践するための役割分担の方法を身に付けることができる。【知・技】
- ・ 係活動を行う上での課題を見だし、その解決のために話し合い、折り合いながら合意形成を図り、学級をよりよくするための係活動を決めることができる。【思・判・表】
- ・ 係活動を通して、学級の友達と関わる中で、違いを認め、協働して活動に取り組む態度を身に付けている。【学】

<深い学びの姿>

- ・ 事前に行った係活動発表会での成果や課題を生かし、係パーティについての自分の考えをもち、話し合いをし、合意形成を図り、決まった方法でみんなで協力して係パーティを実践し、自分自身の成長を確かめている姿

視点1 深い学びを実現する活動構成の工夫

- 「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点をもとに、係活動を盛り上げるための一連の活動を行うことで、自分自身の成長を確かめることができるようにする。

視点2 問題解決的な学習展開の充実

(1) 主体的な学びを促す手立て

事前の活動	・ 計画委員を組織し、係活動の発表の仕方(柱①)について出された意見について、みんなと事前に話合いの見通しをもつことで、学級会への意欲を高めることができるようにする。(主①)
学級会	・ 話合いが停滞したときや、提案理由からそれた時に、提案理由をキーワード化したものに沿って話合いをするように助言したり、提案理由に込められた思いを伝えたりすることで、自分の考えを見つめ直し、話合いを進めることができるようにする。(主②)
事後の活動	・ なりたい自分に近づくために「友達のこと」「自分のこと」「今後に向けて」の三観点を示し、みんなで共有することで、自己の変容を確かめることができるようにする。(主③)

(2) 対話的な学びを促す手立て

事前の活動	・ 朝特活の時間等を活用して全員から出された意見をグループで読む機会を設けて、それぞれの意見を肯定的に評価することで、友達との考えの違いやよさに気付くことができるようにする。(対①)
学級会	・ 意見をまとめるためにグループでの交流時間を設けて、グループでの話合いを肯定的に評価することで、合意形成することができるようにする。(対②) ・ 賛成意見について、係活動を盛り上げるための提案理由をキーワード化したもので分類して可視化することで、どの意見が提案理由に沿っているかが明確になり、合意形成に向かうことができるようにする。(対③)
事後の活動	・ 協働して実践したことを確かめるために、振り返りの観点「みんなと協力して活動できたか」「みんなと活動を楽しめたか」「今後に向けて」を示し、みんなで共有することで、友達のよさを確かめたり、自己の考えを深めたりすることができるようにする。(対④)

4 活動の指導計画

(1) 目標

係活動を盛り上げることを通して、学級生活がより豊かになる方法を考え、実践し、振り返りを行い、さらによりよい学級生活を目指すことができる。

(2) 評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 学級会で決まったことに対して、集団の中での自分の役割を理解している。(人間関係形成)	① 事前・事後の様々な場面で、友達と協力して話し合ったり、係活動を行ったりしている。(人間関係形成)	① 自分の役割を理解してみんなのために進んで取り組んだり、友達と協力して係活動をしたりする中で、よりよい人間関係を築こうとしている。(人間関係形成)
② 話合いの進め方や、合意形成の仕方を理解して実践している。(社会参画)	② 係活動を盛り上げるための問題点を把握し、解決するために話し合い、多様な意見を生かしながら合意形成をしている。(社会参画)	② 合意形成の仕方を理解し、問題点を解決するために話し合い、多様な意見を生かしながら合意形成を図る中で、学級の一員としてよりよい学級生活をつくろうとしている。(社会参画)
③ なりたい自分に近づくために、集団でパーティの準備をしていくことの大切さを理解し、実践している。(自己実現)	③ なりたい自分に近づくために、話合いの状況を理解し、自分と集団にとってよりよい合意形成の仕方を考え、実践している。(自己実現)	③ 自分にふさわしい係活動を考え、主体的に選択し、今後もなりたい自分に近づこうとしている。(自己実現)

(3) 活動計画

【計画委員会の活動】

	日時	児童の動き【評価規準】	指導上の留意点
事前	6/13(木) 朝活動	・ 議題を選定する。【態②】	・ 学級生活をよりよくする視点で議題を選定することで、一連の活動をスムーズに行うことができるようにする。
	6/14(金) 業間休み	・ 学級会ノートを作成する。【思②】	・ 係活動が盛り上がるような提案理由と一緒に考えることで、話し合いをスムーズにできるようにする。
	6/17(月) 朝活動	・ 学級会ノートを全員に配付し、考えを書くように指示を出す。【思②】	・ 提案理由の補足説明をすることで、何を話し合うかの理解を深めることができるようにする。
	6/18(火) 昼休み～ 6/19(水) 昼休み	・ 全員から出された意見をグループ分けして掲示する。【知②】	・ 提案理由に沿った意見となっているかを確認することで、合意形成を図りやすくすることができるようにする。
	6/20(木) 昼休み	・ 学級会の流れを確認するとともに、どのような賛成意見等が出されるかを考える。【知②】	・ 学級会の見通しと一緒に確認することで、計画委員同士で学級会の見通しを共有することができるようにする。(主①)
本時	6/21(金) 2校時	・ 学級会の進行を行う。【知②】	(本時の展開参照)
事後	6/24(月) ～6/27(木)	・ パーティの司会の準備をする。【知①・思①】	・ 司会進行のシナリオを作成することで、自分の役割を理解することができるようにする。
	6/28(金) 業間・昼休み	・ パーティの司会をする。【思①】	・ 実践することで、次の課題を見つけることができるようにする。

【学級全員の活動】

	日時	児童の動き【評価規準】	指導上の留意点
事前	6/17(月) 朝活動	・ 学級会ノートに自分の考えを書く。【思②】	・ 何を話し合うかについてイメージがもてるよう助言することで、具体的な考えを書くことができるようにする。
	6/20(木) 朝活動	・ 壁面に出された意見について、グループで話し合う。【思①】	・ グループで話し合う時間を設けることで、友達の考えのよさに気付くことができるようにする。(対①)
本時	6/21(金) 2校時	・ 学級会に参加し、話し合う。【思②③】	(本時の展開参照) (主②③, 対②③)
事後	6/24(月) ～6/27(木)	・ 各係でパーティの準備をする。【知①③・思①・態①】	・ 提案理由に沿って準備していくことで、活動の目標が達成できるようにする。
	6/28(金) 業間・昼休み	・ パーティをする。【思①】 ・ ふり返りをする。【態③】	・ 三つの観点に沿って振り返ることで、自己の考えを深めることができるようにする。(対④)

5 本時の展開

(1) 目標

係活動を盛り上げるために話し合い、多様な意見を生かしたり、話し合いの状況を理解したりして、自分にも集団にもよい合意形成を図ることができる。【思・判・表】

(2) 教師の指導計画

(主) 主体的な学びを促す手立て・(対) 対話的な学びを促す手立て

段階	主な活動内容	教師の支援 (◇評価)	資 料
導入 5分	1 はじめの言葉 2 役割紹介 ・ 司会グループが自己紹介する。 3 めあての確認 4 議題の確認 係パーティを盛り上げよう 5 提案理由の説明 ・ 提案者が理由を述べる。	・ 議題や提案理由等を書いたものを掲示することで、合意形成を図りやすくすることができる。	・ 議題や提案理由等を書いたもの
	〈提案理由について〉 もっと活発な係活動にするために、係活動発表会を行った。前より協力して活動することができるようになってきたが、進んでできているとは言えない。そこで、さらに活発な係活動にするために、次の理由のもと、話し合いを行う。 ①発表者も聞いている人も全員が参加しているパーティにしたい。(全員参加) ②すべての係を体験して、自分の係をさらによりよいものにしたい。(全部体験) この提案理由で話し合うことで、さらに活発な係活動が行われるようになると思う。		
	6 決まっていることの確認 いつ・・・6月28日(金)業間・昼休み どこ・・・教室 だれ・・・それぞれの係 何を・・・ どのように・・・ 7 先生から	・ 提案理由をキーワード化したものを提示することで、話し合いを焦点化することができるようにする。 ・ 提案理由に沿った話し合いをするように助言することで、もう一度話し合いを焦点化することができるようにする。	
展開 35分	8 話し合い ・ 柱①「パーティのやり方をどのようにするか」 ア 出店形式 イ 発表会形式 ・ 柱②「すべての係を回ってみるためにはどうすればよいか」 ア ポイントカードを作る。 イ 宣伝の紙を作る。	・ 話し合いが方法に終始する可能性がある。その場合は、キーワードに返って話し合いをすることで、合意形成に向かうことができるようにする。(主) ・ 賛成意見をキーワード毎に分類することで、提案理由に沿った意見を可視化することができるようにする。 ・ 決める段階では、グループでの交流時間を設けて、グループでの話し合いを肯定的に評価することで、合意形成ができるようにする。(対)	・ キーワード
終末 5分	9 決まったことの発表 ・ ノート記録が発表する。 10 振り返りをする ・ 「友達のこと」「自分のこと」「今後に向けて」の観点で振り返りをする。 11 先生から 12 おわりの言葉	・ 振り返りで「友達のこと」をはじめに書くことで、自分と友達との比較ができて、自分のことが書きやすくなるようにする。 ◇ 提案理由に沿って話し合い、多様な意見を生かしたり、話し合いの状況を理解したりして、自分と集団にとってよい合意形成を図っている。【思 発言・ノート】 ・ 「先生から」で「良かった点」「課題点」「計画委員への労い」「今後に向けて」の観点を話すことで、次の活動へとつなげることができるようにする。	

